

# Daily Report (号外)

## ～FOMCの結果について～

### 概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、1月25～26日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。

声明文では、利上げについて「物価は2%を大幅に上回り、労働市場には力強さが見られる」と環境認識を高めたうえで、「FF金利誘導目標レンジの引き上げが近く適切になると予想している」という文言を追加し、早期に利上げが必要なことを明らかにしました。テーパリングのペースについては、米国債200億ドル、MBS100億ドルの計300億ドルと前回から変更はありませんでしたが、終了時期については「2022年3月上旬に終了する」と新たに明記されました。また、声明文の他に量的引き締め(QT)に関する計画「バランスシート縮小政策に関する原則<sup>\*1</sup>」が新たに公表されましたが、具体的な時期・ペースについては言及されていません。

パウエルFRB議長はFOMC後の記者会見で、利上げについて「2015年<sup>\*2</sup>とインフレ・労働市場の環境が異なる」と説明し、前回よりも早いペースで利上げが生じる可能性を示唆したものの、今後の利上げ回数・利上げ幅については「将来のペースについてはまだ決まっていない」と、明言を避けました。また、注目の集まっていた量的引き締め(QT)に関しては、「利上げ以降に実施する」、「償還を迎える保有証券の再投資分を調整する」という前回2017年のQTと類似の手法をとることに言及し、詳細については次回3月のFOMCで議論することを示唆しました。QTについても「具体的な時期やペースについては、今後の開催される会議において議論し、適切な時期に追加情報を提供する」とし、当会見での踏み込んだ発言を避けました。

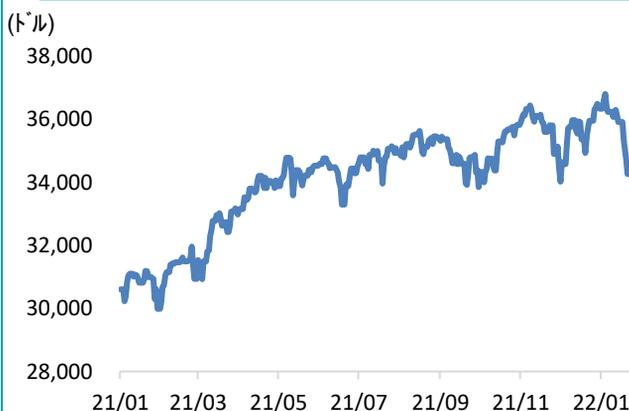
\* 1 “Principles for Reducing the Size of the Federal Reserve’s Balance Sheet”

\* 2 前回の利上げ開始年

### 市場の反応

26日の米国株式市場では、大きなサプライズは無かったものの、金融引き締めペースについて不透明感の残る発言などがあったため、NYダウは記者会見後に高値から800ドルほど下げた後、終値にかけてやや戻し、前日比129.64ドル安の34,168.09ドルへ下落しました。米国国債利回りは0.09%高の1.86%で終え、ドル円は円安方向に動き114円台後半となっています。

#### NYダウの推移



#### 米10年国債利回りの推移



(期間)2021/1/1～2022/1/26、(出所)Bloomberg

## 評価及び今後の見通し

今回のFOMCは1月に米国株式市場が大きく下落していたこともあり、利上げペース加速の示唆や量的引き締めを早期化するなど、FRBが想定以上のタカ派姿勢を見せるかについて注目が高まっています。FOMC後の記者会見ではパウエルFRB議長は踏み込んだ発言をしなかった一方、今後の利上げペースや利上げの幅について直接的な回答を避けたこと等から、株式市場はボラティリティの高まる結果となりました。今後は、2月16日(米国時間)に公表される議事録に注目が集まっています。

足元でインフレ率は供給不足などを背景に高い水準で維持しており、労働市場についても、直近の失業率は3.9%とコロナショック以前の3.5%に近づき、自然失業率の代替指標として利用されるNAIRU (Non-Accelerating Inflation Rate of Unemployment)の4.3%を下回っています。このような状況から、FRBは今後、市場とコミュニケーションを取りながら利上げ・量的引き締めなどの金融引き締めに対して積極的な姿勢を見せていくと予想しています。

米国の金利見通しについては、短期ゾーンが利上げを織り込み上昇する一方、長期ゾーンは将来の期待インフレの低下や成長減速を織り込み上昇が抑制され、イールドカーブのフラット化が進むと予想します。初回の利上げが予想される3月頃は依然インフレ率の高止まりも予想されることから、米10年国債利回りは2%近辺まで上昇する局面もあると見ています。

## (ご参考) 今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
2月			3日: ECB理事会
3月	17-18日: 日銀金融政策決定会合	15-16日: FOMC	